

2 目標起草委員会における教育目標設定の実際

目標起草委員会では、前述の目標設定全体構想に基づき、四専門部会で検討されてきた部会による教育目標、教育課題、達成目標を整理・統合し、生涯教育の立場に立った人生各期にわたる教育目標を設定する。

また、目標の具現化を図る意味から、各主体者が重点化する際の参考にもなり、重点的に取り組むことが望ましい目標として、重点教育目標を設定する。

そして、人生各期にわたる教育目標及び重点教育目標のそれぞれについて解説文を作成するとともに、目標全文の起草をし、答申文（案）を作成する。

(1) 人生各期にわたる教育目標の設定について

① 教育目標設定の考え方とその手順

生涯教育の立場に立った人生各期にわたる教育目標としてまとめあげるためには、四専門部会で検討されてきた部会の教育目標、教育課題、達成目標を、どのような角度から整理・統合していくかが問題である。

目標起草委員会では、まず、四専門部会による教育目標をいくつかの視点から大きく整理し、教育の適時性をふまえながら整理する。次に、目標間の包摂関係を検討しながら、分離・統合作業を進め、最終的には、人生各期に位置づけられた目標系列における内容項目の集約によって目標内容の柱を浮きぼりにし、人生各期にわたる教育目標としてまとめあげようとした。

第1段階として、四専門部会が検討してきた教育目標及び達成目標が、どのような目標内容から成り立っているかを明らかにするため、整理してみる必要がある。そこで仮説として、現在及びこれからの社会において強調される五つの人間像（河野重男著「現代の学校」第一法規）を分析し、それらの角度（ア 自己教育のできる人間 イ 情報の主人公になれる人間 ウ 新しい人間関係の中で生きる人間 エ 多元的価値観の社会に生きる人間 オ 国際社会に生きる人間）から分類し、整理した。しかし、四専門部会で検討されてきた教育目標は、五つの人間像の角度で整理できるものもあるが、二つ以上の人間像にかかわるもの、五つの人間像では覆いきれないものもあった。これらについては、五つ以外の目標群をつくり、整理しようとした。

また、四専門部会設定の教育目標については、教育の適時性を十分検討しながら人生各期に位置づけることにした。

第2段階として、四専門部会設定の教育目標は、いくつかの教育課題を包含して大きくとらえている目標もあれば、一つの教育課題を達成するための目標もあり、目標表現レベルに違いがある。そこで、目標間の包摂関係を検討しながらレベル調整をし、教育の適時性を十分検討しながら、分離・統合作業を進めた。

第3段階として、このようにして、人生各期に整理・統合された教育目標を、「足利市の人生各期にわたる教育目標」(試案)として、市民に広く発表し、目標試案に対する意見や要望を聴取し、目標試案に反映させていった。

第4段階として、人生各期にわたる目標試案をもとに、各専門部会で設定した達成目標を検討するとともに、達成目標の角度からの目標試案を検討した。

最終段階として、重点教育目標の設定作業とあいまって人生各期にわたる教育目標内容の柱を浮きぼりにする必要性から、人生各期の目標系列と目標内容が関連する目標群の二つの角度より目標内容を集約し、市民憲章との関連をふまえながら最終的な「人生各期にわたる教育目標」にまとめあげようとした。

② 教育目標の整理・統合の経過

四専門部会で設定した教育目標を整理・統合し、人生各期にわたる教育目標(72目標)を試案として作成し、中間発表会でこれに対する市民の意見や要望を聴取した。

目標設定委員会では、これらの意見や要望をもとに検討し、最終的には70目標から成る人生各期の教育目標を設定した。

ア 目標の整理・統合

番号	中間発表試案	最終目標
1	<p>⑦ よりよい社会をつくるために必要な基礎的知識や態度を身につける。 (青年後期)</p> <p>① 自他および個と集団に関する認識を深め、社会的義務や責任を重んずる態度を身につける。 (青年期)</p> <p>② 個人または団体の利害だけにとらわれず、全体の調和を図っていくことができる。 (壮年期)</p>	<p>14 個人または団体の利害だけにとらわれず、全体との調和を図っていくことができる。 (青年期～壮年期)</p>
	<p>○ 中間発表試案の⑦、①は、学校教育専門部会の教育課題を受けた目標であり、②は、市民としての教育専門部会の教育課題を受けた目標である。目標起草委員会においてこれら三つの目標の達成目標を検討した結果、自分を含めて社会全体の生活をよりよくする角度からの達成目標であるため、⑦、①、②の目標を統合し、目標番号14の目標を設定した。</p>	

IV 足利市の教育目標設定の実際

番号	中間発表試案	最終目標
2	<p>㊦ 正しい異性の見方を学び、同輩仲間との正しい交際の仕方を身につける。 (青年期)</p> <p>㊧ 性差を理解し、男女の社会的役割を考え、それぞれにふさわしい考え方を身につける。 (青年期)</p>	<p>20 友情の尊さを理解し、友達との交際の仕方を身につける。 (青年期)</p> <p>35 男女の特性を理解し、清純で明朗な交際の仕方を身につける。 (青年期)</p>
<p>○ 中間発表試案の㊦、㊧は、学校教育専門部会の教育課題を受けた目標である。目標起草委員会においてこれら二つの目標を検討した結果、青年期における交際のあり方の重要性の面から、友達としての交際の仕方と、男女の清純で明朗な交際の仕方の二つに分けられるという結論に達したため、㊦、㊧の目標を統合し、それをさらに分離して、目標番号20と35の目標を設定した。</p>		
3	<p>㊦ 友だちと積極的に遊べる態度を身につける。 (乳幼児期)</p> <p>㊧ 男女それぞれよいところを出し合って、仲よくふるまう態度を身につける。 (乳幼児期)</p>	<p>26 友達のだれとでも積極的に仲よく遊べる態度を身につける。 (乳幼児期)</p>
<p>○ 中間発表試案の㊦、㊧は、学校教育専門部会の教育課題を受けた目標である。目標起草委員会においてこれら二つの目標を検討した結果、乳幼児期においては、男女の意識もあまり見られず、仲よく遊ぶことが重要であるという角度から、㊦、㊧を統合し、目標番号26の目標を設定した。</p>		

番号	中間発表試案	最終目標
4	<p>㉞ 日本の地理や歴史を広い視野から学び、国民としての自覚を高めることができる。</p> <p>㉟ (児童期) 日本を中心とする国際関係や国際問題を学ぶことができる。</p> <p>㊱ (青年前期) 国際理解のために世界の国々のようすを学ぶことができる。</p> <p>㊲ (青年後期) 国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。</p> <p>(青年期)</p>	<p>67 日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。</p> <p>(児童期～青年期)</p>
<p>○ 中間発表試案の㉞, ㉟, ㊱, ㊲は、学校教育専門部会の教育課題を受けた目標である。これら四つの目標の達成目標を検討した結果、相互に関連し合っており究極的には、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることであり、四つの教育目標を統合した方がよいとの結論に達したため、㉞, ㉟, ㊱, ㊲の目標を統合し、目標番号67の目標を設定した。</p>		
5	<p>㉞ 情報の活用によって住みよい社会をつくろうとする態度を身につける。</p> <p>㉟ (壮年期) 国際社会における産業の果たす役割を正しく認識できる。</p> <p>(壮年期)</p>	<p>69 国際社会における郷土の産業の果たす役割を正しく理解できる。</p> <p>(壮年期)</p>
<p>○ 中間発表試案の㉞, ㉟は、職業人としての教育専門部会の教育課題を受けた目標である。㉞の目標は、技術革新のための情報の活用という角度からとらえている。また、㉟の目標は、産業を広く国際的視野からとらえている。この㉞, ㉟は、技術革新のための情報の活用によって郷土及び国内の産業の振興を図るとともに、相互貿易、技術援助を通しての国際協力の面から統合できるという結論に達したため、㉞, ㉟を統合し、目標番号69の目標を設定した。</p>		

IV 足利市の教育目標設定の実際

イ 目標の分離

番号	中間発表試案	最終目標
1	<p>⑦ 職業を通して生きがいがある。 (青年期～壮年期)</p>	<p>43 職業人としての自己研修にたえず努める。 (青年後期～壮年期)</p> <p>44 職業人としての専門的スキルや資格を身につける。 (青年後期～壮年期)</p> <p>45 職業を通して生きがいがある。 (青年後期～壮年期)</p>
<p>○ 中間発表試案の⑦は、職業人としての教育専門部会の教育課題を受けた目標である。この目標と目標に含まれる教育課題との関連を検討した結果、教育課題が多く、この目標では、教育課題の達成を図ることは困難であるという結論に達したため、⑦の目標を分離し目標番号43、44、45の目標を設定した。</p>		
<p>○ なお、発達期(目標達成の時期)についても、職業人としての能力や課題としてとらえた場合、青年後期から位置づけるのが妥当であるとの結論に達した。</p>		
2	<p>⑦ 自由時間を有効に過ごすとともに、家庭で行う行事に積極的に参加することができる。 (児童期)</p> <p>⑧ 自由時間を有効に過ごすとともに、家風を継承し創造することができる。 (青年期)</p> <p>⑨ 進んで計画的に自由時間を活用するとともに、よりよい家風を継承し創造することができる。 (壮年期)</p>	<p>39 家庭で行う行事に積極的に参加する。 (児童期)</p> <p>62 自由時間を有効に過ごす。 (児童期)</p> <p>39 家庭で行う行事に積極的に参加する。 (青年期)</p> <p>62 自由時間を有効に過ごす。 (青年期)</p> <p>40 よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。 (壮年期)</p> <p>63 進んで計画的に自由時間を活用する。 (壮年期～高齢期)</p>
<p>○ 中間発表試案⑦、⑧、⑨の目標は、市民としての教育専門部会の教育課題と家庭人としての教育専門部会の教育課題とを受けた目標である。この目標を検討した結果、家庭や地域の文化を継承し創造する内容と、個人の趣味や教養を高めたり、サークル活動に参加したりする内容とは異質なものであるとの結論に達した。</p>		
<p>○ さらに、目標表現について検討した結果、青年期は家庭行事への積極的参加を重視すべきとの結論に達したため、児童期、青年期の目標を同じにした。</p>		

ウ 目標の発達期(目標達成の時期)変更

番号	教 育 目 標	中間発表試案	最終目標
1	12 日常生活の中で社会的に望ましい習慣や態度を身につける。	乳幼児期～青年前期	乳幼児期
	○ 目標12の児童期及び青年前期の達成目標を検討した結果、目標13「社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。」(児童期)及び目標15「社会の一員としての役割を自覚し、責任ある言動をとる。」(青年期)と同じく、社会の一員としての生活態度の育成という角度から設定されたものであるため、目標12の児童期、青年期は、目標13(児童期)目標15(青年期)に移行した。		
2	15 社会の一員としての役割を自覚し、責任ある言動をとる。	青年期～高齢期	青年期～壮年期
	○ 「社会の一員としての役割の自覚や責任ある言動」について、高齢期は若い人々を指導する立場であり、すでに身につけて実践しているため、青年期から壮年期にかけて達せられるべき目標であるとの結論に達した。		
3	30 奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。	青年期	児童期～青年期
	○ 中間発表会において、「奉仕活動については児童期からの目標にしてはどうか。」との意見もあり、これらをふまえ、目標起草委員会で発達期について検討した結果、乳幼児期から大切であるが、特に児童期から青年期にかけて達せられるべき目標であるとの結論に達した。		
4	36 結婚の意義を理解し、健全な家庭生活を営む態度を身につける。	青年期	青年後期
	○ 目標36は、結婚や健全な家庭生活を営む態度を身につける内容であり、青年前期より結婚適齢期に入る青年後期に位置づけることが適切であるとの結論に達した。		

IV 足利市の教育目標設定の実際

番号	教 育 目 標	中間発表試案	最 終 目 標
5	46 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 勤労の尊さを理解し実践する。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 児童期～青年前期 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 児童期～青年後期 </div>
	<p>○ 中間発表会において、「青年が遊ぶことに気持ちがいき過ぎていないか。」の意見もあり、これらをふまえ、目標起草委員会で発達期について検討した結果、勤労は充実した生活を追求することにつながることから、青年後期までがよいとの結論に達した。</p>		
6	61 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 児童期～高齢期 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 乳幼児期～高齢期 </div>
	<p>○ 中間発表会において、「ものを大切にすることについては乳幼児からの目標にしてはどうか。」との意見もあり、これらをふまえ、目標起草委員会で発達期について検討した結果、このことは乳幼児期から身につけることが大切であり、高齢期では若い世代に指導することが課題であるとの結論に達した。</p>		

エ 目標の表現変更

目標表現については、生きてはたらく目標になるためにも、市民にできるだけわかりやすい表現にしようと検討し、次のようにした。

番号	中 間 発 表 試 案	最 終 目 標
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 郷土の自然や公共物を大切にするとともに、郷土の文化を理解し、その発展に努める。 </div>	1 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 郷土の自然や文化に親しみ、その保護・発展に努める。 </div>
	<p>○ 中間発表会において「…文化を理解し…」とあるが、自分の心を豊かにし、はたらきかけ愛護する意味でも「…文化に親しみ…」にしてはどうかとの意見もあり、これらをふまえ、目標起草委員会で目標表現について検討した結果、公共物を大切にすることは目標61に移行し、目標番号1の目標のように変更した。</p>	
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> スポーツを通して身体を鍛えるとともに、自ら健康管理ができる。 </div>	5 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。 </div>
	<p>○ 中間発表会において、粘り強さや協調性等が青年期では大切ではないかとの意見もあり、これらをふまえ、目標起草委員会で目標表現について検討した結果、「身体」のみでなく「精神」も鍛えることが大切であるとの結論に達したため、目標番号5の目標のように変更した。</p>	

番号	中間発表試案	最終目標
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 公民としての社会的役割を自覚し、責任ある言動をとることができる。 </div>	15 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 社会の一員としての役割を自覚し、責任ある言動をとる。 </div>
<p>○ 「公民としての…」の意味がわかりにくいため検討した結果、社会の一員としての生活態度の育成という角度からの内容であるため、「社会の一員としての役割」の方がわかりやすいとの結論に達したため、目標番号15の目標のように変更した。</p>		
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自他ともに尊重し合い、明るい集団生活ができる。 </div>	38 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。 </div>
<p>○ この目標は、家庭人としての教育専門部会の教育課題を受けたものであり、主に家庭内のコミュニケーションが中心であるため「自他ともに」より「家族が互いに」の方がわかりやすいとの結論に達したため、目標番号38の目標のように変更した。</p>		
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道徳に対する柔軟な価値意識の形成に努めるとともに、自らの行動や態度を高める人間の育成をはかる。 </div>	24 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道徳的な態度を身につけ、実践することができる。 </div>
<p>○ 道徳に対する柔軟な価値意識の形成は、青年期においては大切ではあるが、目標表現としてはむずかしく、達成目標から考えて道徳性の高揚という角度から、目標番号24の目標のように変更した。</p>		
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 安定した職業によって充実した家庭生活ができる。 </div>	48 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分の仕事について家族に理解させる。 </div>
<p>○ 「安定した職業によって…」の表現については、「安定した職業」のとらえ方がむずかしく、達成目標の内容が生計者の仕事について家族に知らせることであるため、目標番号48の目標のように変更した。</p>		

IV 足利市の教育目標設定の実際

番号	中間発表試案	最終目標
7	基礎的な知識や技能を身につける。	52 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。
	<p>○ 生涯教育の考えに立った新教育課程の精神からみても、知識、技能を身につけるだけでなく、自ら学びとる態度の育成が特に児童期から青年期にかけて大切であるとの結論に達したため、目標番号52の目標のように変更した。</p>	

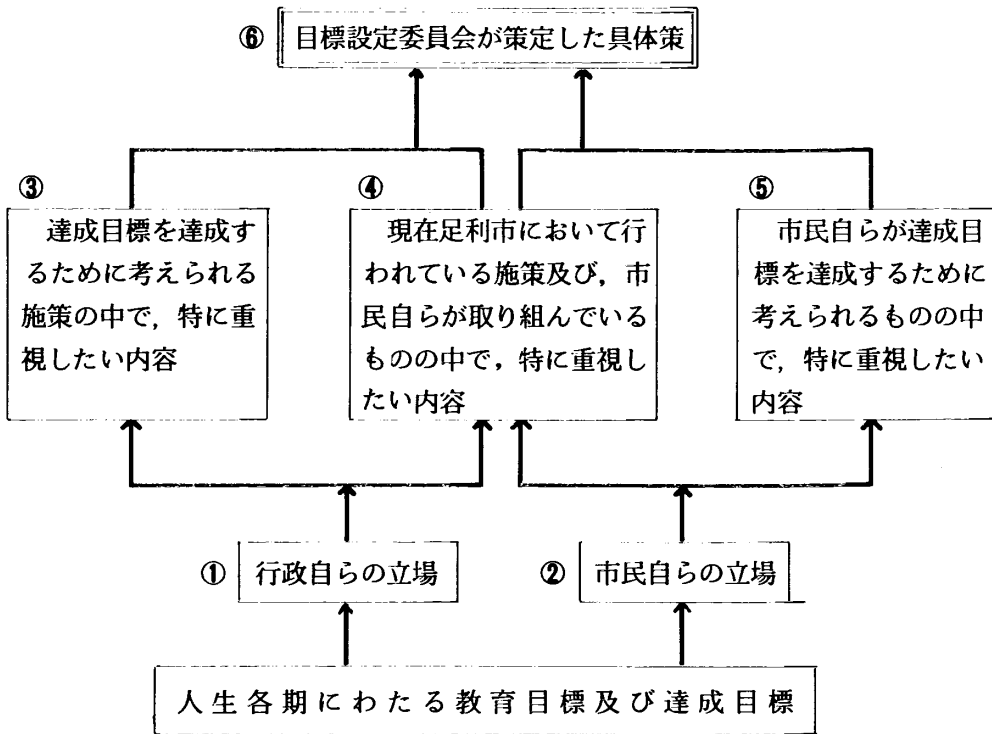
オ 新規に設定した教育目標

番号	教育目標	理由
1	37 性について正しい理解をもち、家庭において指導することができる。 (壮年期)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭における性教育について、正しい理解を深めることが必要である。」の教育課題を受けた目標で、家庭における性教育の必要性から、新しく設定した。 ○ この課題を受けた達成目標は、他の教育目標に含まれていたが、それらを教育目標番号37の目標の達成目標に位置づけた。
2	27 よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。 (児童期)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同和対策審議会の答申の網目を通し、専門部会及び目標起草委員会で検討して設定した目標である。 ○ 国民的課題、県民的課題であり、市民的課題でもある同和問題を、心理的差別の解消という側面からとらえ設定した。 ○ 部落差別の解消については、「日常生活の中で社会的に望ましい習慣や態度を身につける必要がある。」及び、「公民としての社会的役割を自覚し、責任ある言動をとる必要がある。」の教育課題を受けた教育目標の中に含まれていたが、それらを分離し教育目標番号 27、28、29の目標を設定した。
	28 同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。 (青年期)	
	29 同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。 (壮年期～高齢期)	

③ 具体策策定並びに教育機能連関作成の構想

各専門部会で検討されてきた教育目標、達成目標を整理・統合し、人生各期にわたる教育目標及び達成目標を設定する。さらに、これらの教育目標を達成するために、具体策の策定並びにそれぞれの教育の役割とそのかかわり（教育機能連関）を明らかにする。そのために、次のような構想を立て、策定作業を進めた。

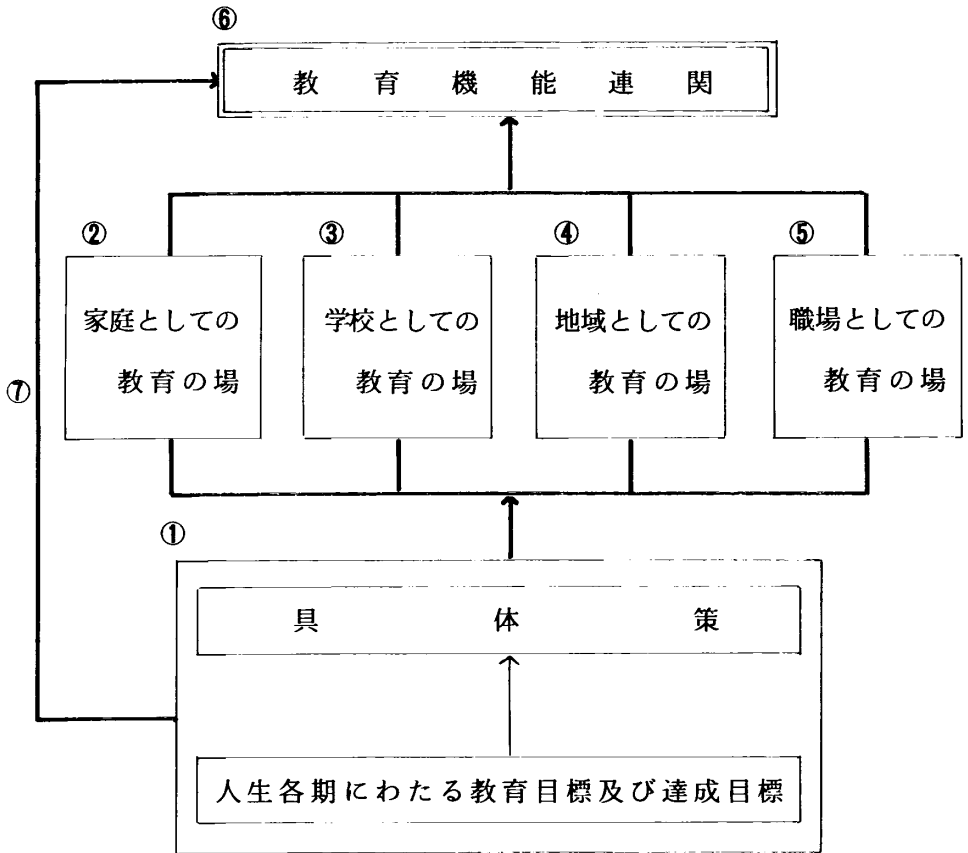
ア 具体策策定の考え方及びその手順



- ① 教育目標及び達成目標を達成するために、行政自らの立場から具体策をとらえる。
- ② 教育目標及び達成目標を達成するために、市民自らの立場から具体策をとらえる。
- ③ 教育目標及び達成目標を達成するために考えられる施策の中で、特に重視すべき内容をとらえる。
- ④ 教育目標及び達成目標を達成するために、現在 足利市において行われている施策や市民自らが取り組んでいるものの中で、今後も特に重視すべき内容をとらえる。
- ⑤ 市民自らが教育目標及び、達成目標を達成するために考えられるものの中で、特に重視すべき内容をとらえる。
- ⑥ ③・④・⑤の三つの角度からの内容を整理・統合し、目標設定委員会による具体策として策定する。

IV 足利市の教育目標設定の実際

イ 教育機能連関作成の考え方及びその手順



- ① 教育目標及び達成目標を達成するために、具体策を策定する。
- ② 家庭としての教育の場がどのような役割を担うべきかを明らかにする。
- ③ 学校としての教育の場がどのような役割を担うべきかを明らかにする。
- ④ 地域としての教育の場（自治会、学校区、市行政、その他公機関等）がどのような役割を担うべきかを明らかにする。
- ⑤ 職場としての教育の場がどのような役割を担うべきかを明らかにする。
- ⑥ 教育目標及び達成目標を達成するために、中核となる教育の場と、それを支える教育の場のかかわりを明らかにする。
- ⑦ いくつかの人生各期にまたがる教育目標については、教育の適期及び前後の目標のかかわりを明らかにする。